

親子で学ぶ歯の絵本  
「トゥース・フェアリーは、ごきげんななめ」 別冊付録

保護者さまのてびき

生えかわったばかりの歯はとってもデリケート

歯の生えかわりのはなし

歯の絵本 生えたての永久歯のケア



絵本「トゥース・フェアリーは、ごきげんななめ」は、ストーリーを通して、「歯の生えかわり期のケア」への理解を深めていただけるよう編集されています。  
絵本読み解きの際のポイントをまとめました。

## 生えたての歯がむし歯になりやすいわけ

生えかわり期の  
歯みがき

- エナメル質がまだやわらかい
- 表面が粗く、プラークが付着しやすい
- 歯の溝が深く、メンテナンスしづらい
- 歯並びがデコボコしていて歯みがきがむずかしい

このように、永久歯の生えかわりの時期は、歯そのものがまだデリケートであること。

そして、生えかけの歯があったり、乳歯と永久歯が混在していたりと、磨きにくい箇所が増える時期です。

また、歯と歯の間だけでなく、奥歯の溝や歯と歯肉の間などにもむし歯ができやすい時期でもあります。

この時期は、とりわけ保護者さまが、歯ブラシの当て方に注意しながら絵本のように仕上げみがきをしてあげるようにしましょう。





トウース・  
フェアリーとは？

## トウース・フェアリーとは = 「歯の妖精」です。

西洋では、抜けた乳歯を枕の下に入れて寝ると、翌朝、歯のトウース・フェアリーがコインやキャンディーに交換してくれる…。そんな言い伝えがあります。

また地方によっては「ネズミの歯と取り替えろ」というかけ声を掛けて、生え替わってくる永久歯が丈夫であることを祈るといった風習も。

これは、ネズミの歯が生涯伸び続けることにあやかっています。



この物語では、ご機嫌ななめで登場するトウース・フェアリー。

## ちなみに日本では・・・

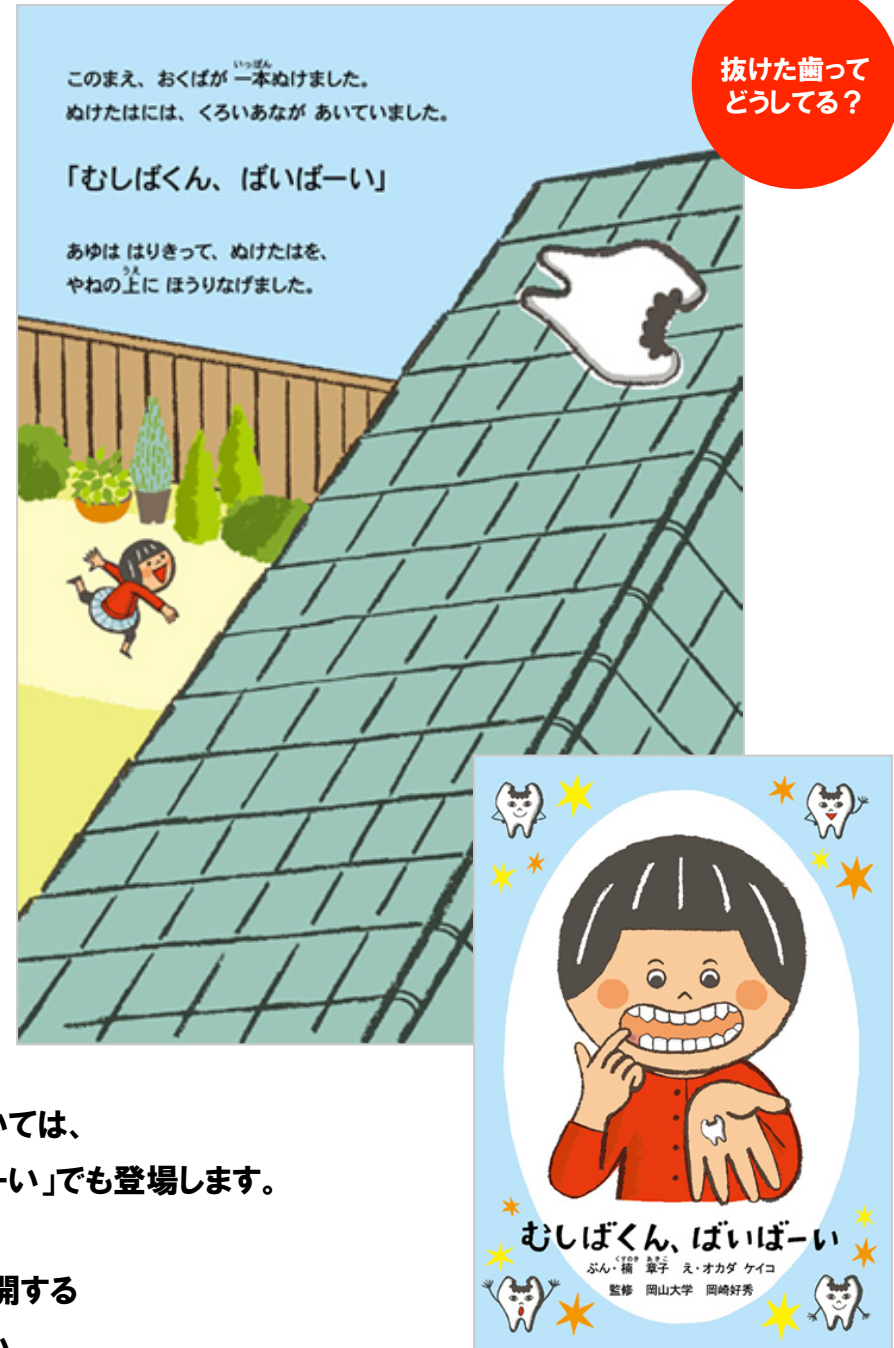
日本では、抜けた乳歯を、上の歯の場合には床下に埋める。  
下の歯の場合には屋根に向かって縁側や窓などから放り投げる。  
こんな風習がありますよね。

もっともマンションなどの高層住宅が増えてしまった昨今では、  
床下も屋根も日常的な場所ではなくなったという、  
ちょっぴり寂しい事実もあります・・・。

昭和生まれの筆者は、風習の意味をさほど深く理解せず、  
上の歯も下の歯も、とりあえず土に埋めておいた・・・  
なんて記憶もあります。

抜けた歯を屋根に放り投げる風習については、  
歯の絵本シリーズ、「むしばくん、ばいばーい」でも登場します。

放り投げた歯がお話のモチーフとして展開する  
こちらの作品もぜひあわせてご覧ください。



## 乳歯を「再生医療」に活用する動きも。

最近の医療では、抜けた乳歯は将来の再生医療のために保管しておく…。  
こんな動きもあるようです。

再生医療に必要なのが、幹細胞と呼ばれる、いわば「細胞のタネ」。  
このタネが、私たちの臓器の本来のかたちや機能を元通りにしてくれるのです。

細胞のタネは、骨髄や臍帯血などから採取できることが知られていますが、  
最近の研究では、歯の神経である歯髄細胞にも、この細胞のタネが  
採取可能なことがわかってきました。

こうして将来、病気になったり大怪我をした時、  
身体や神経を再生させるための治療に活用ができる可能性があるとして、  
「乳歯の再活用」が注目されています。

